

わが国を近代国家へと導いた簿記教育について

久留米市立南筑高等学校

江 頭 彰

1. はじめに

近代国家を支える社会制度の確立

- ・大蔵省 明治4年「国立銀行条例」 紙幣寮での銀行簿記教育
- ・文部省 明治5年「学制」 小・中学校等での簿記教育
- ・明治政府明治11年「計算簿記条例」 全官庁経理の複式簿記

など

*横須賀製鉄所（造船所）フランス会計帳簿

*大阪造幣寮 ポルトガル人 ブラガ

2. 洋式簿記導入について

（1）明治6年出版の簿記書

- ① 6月 福澤諭吉（訳）『帳合之法』初編二冊 略式（単式簿記）
*明治7年福澤諭吉（訳）『帳合之法』二編二冊 本式（複式簿記）
- ② 10月加藤 斌（訳）『商家必用』上下二冊 単認（単式簿記）
- ③ 12月大蔵省 『銀行簿記精法』五冊 複式簿記

（2）主な商業教育機関の設立

- ① 明治8年 商法講習所（東京） 森有礼
- ② 明治11年 三菱商業学校（東京） 岩崎弥太郎
- ③ 明治11年 神戸商業講習所（兵庫） 福澤諭吉
- ④ 明治13年 大阪商業講習所（大阪） 五代友厚

など

3. 指導上の工夫

（1）『帳合之法』

- ・『学問のススメ』とともに近代思考啓蒙書
- ・日本文化に配慮

（2）『銀行簿記精法』

- ・現金式仕訳法…シャンド・システム
銀行業に加えて商工業にも採用

4. 商業教育機関での簿記教育の特徴

(1) 三菱商業学校 米国簿記書の翻訳書

① 森下岩楠・森島修太郎『三菱商業学校 簿記学階梯』上下 二 冊

日記帳・仕訳帳・元帳・試算表

損益勘定→ 損益表 残高勘定→ 有物及負債表

*誘導法的損益計算構造

*決算締め切り法…アメリカ式

② 森島修太郎 『三菱商業学校 簿記学例題 全』

取引要素説の発端…現在の取引の8要素による説明

(2) 神戸商業講習所 独自の導入書

① 藤井清『略式 帳合法 付録』

『帳合之法』略式(洋式単式簿記)の導入書

② 藤井清『和欧 帳面くらべ』

帳簿の和式と洋式の比較

③ 神戸商業講習所編『新編 簿記例題 和式の部』

(3) 大阪商業講習所 東京と神戸の中間レベル

和式帳合・洋式簿記(単式・複式)・業種別簿記・論理簿記

5. 明治23年『商法』制定による簿記教育の隆盛

(1) 商業帳簿規定

- ・商業帳簿作成の義務
- ・商業帳簿提出の義務
- ・商業帳簿保存の義務

(2) 財産目録と貸借対照表

(3) 簿記教育機関の登場

- ・専門学校
- ・通信教育

6. むすびにかえて

近代国家を支える社会制度を担う人材

- ・近代思考と信用の担保
- ・国内外から信頼される人材の育成